

まこい補少

筆慶永 上司 別当大寺東 215 第

第63号
発行

生駒警察署
少年補導員協会

平成27年
4月

青少年を取り巻く環境の変化と

補導員の在り方

生駒警察署少年補導員協会

会長 有山 豊茂



関西の春を呼ぶお水取りの行事も終わり、本格的な春の訪れを迎える季節になって参りました。皆様方におかれましては益々ご清栄の事とお喜び申し上げます。

平素は生駒警察署少年補導員協会に、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、青少年を取り巻く社会情勢は日々変化し、特にインターネット上や携帯電話、スマートフォンを使ったネット上の掲示板など、一度掲示をしてしまうとその内容が独り歩きをし、不特定多数

に幅広く広がってしまう怖さがございます。皆様の記憶にまだ新しい事案として、川崎市の少年を殺害した事件、本当に信じがたいショックな事件でした。被害者の少年はスマートフォンで「LINE」を使って、何度もSOS信号を発信していたのですが、子どもたちのグループだけにしか伝わらず、残念ながら我々大人には届かなかったのです。

このように、子どもたちが利用している書きこみ先は、ID交換掲示板や出会い系アプリなど、聞き慣れない活字が並び、私たちはついていけないのが現状です。便利さだけが先行して、その裏に存在する怖さを忘れてしまいう恐ろしさをもう一度考えなくてはいけないのではないのでしょうか。

少年非行は、最近減少傾向

にあります。一方、凶悪犯と再犯の増加が目立つようになってきたのが現状です。私たち大人は再犯を起こさない地域づくり、街づくりを構築していくことが大切だと思われれます。子どもたちにも、厳しくも温かい手を差し伸べ、正しい道へ導く、まさに補導活動だと感じます。

全てのことが新しくなり便利な現代こそ、昔のようないい意味での近所の「怖いオッチャン」が、お節介な隣の「オバチャン」が必要なのかもしれません。我々警察ボランティアは隣の「オバチャン」、近所の「怖いオッチャン」になり、街頭補導活動の原点に戻り、子どもたちに「声掛け運動」を続けていきたいと思っております。

子どもたちを見守り、安心安全な街を目指す地域の一助となるよう、会員一同力を合わせて活動して参りますので、今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

市民憲章実践推進者
受賞

平成二十七年二月二十三日、生駒市コミュニティセンターにて「市民憲章実践推進者」の表彰式が執り行われました。個人の部で、生駒警察署少年補導員協会鈴木 道子氏が表彰されました。長年にわたり地域の安全と青少年の健全な育みに貢献された氏の功労が受賞対象となりました。おめでとうございます。



着任にあたって

生駒警察署署長

砥石 秀夫



本年二月二十日付けで、生駒署長に着任いたしました砥石でございます。

昭和五十三年に警察官を拝命し、主に交通部門で勤務して参りました。

皆様には、平素から警察活動全般、とりわけ少年補導活動や、少年の健全育成活動にご理解、ご協力を賜り、また、昨年中には、街頭補導活動をはじめ、奈良県カンファレンス及び地域安全運動奈良県民大会等、多くの行事に熱心に取り組んでいただくなど、多大なご尽力につきまして、心から敬意と謝意を申し上げる次第です。

さて、昨年県下の刑法犯認知件数は一一、一四〇件と対前年比で一、一九七件減少させることができ、当署管内におきましても、六一六件と対前年比で一〇九件減少となりました。

しかしながら、県民が不安を身近に感じる住宅対象侵入窃盗やひったくり、あるいは、被害者の大半を高齢者が占める振り込め詐欺の発生も後を絶たないなど、住民目線から見ると、肌で感じる治安の回復には至っていない現状にあります。

また、少年非行をめぐる情勢につきましても、数値的には減少傾向にあります。全国的に少年による凶悪事件が発生し、また、インターネットや携帯電話等を利用した犯罪、誹謗・中傷など、少年を取り巻く状況は非常に厳しいものとなっております。

これらの状況を打破するためには警察の力だけではなく、少年補導員協会の皆

様をはじめとする「地域の支え・ご協力」が不可欠と考えております。

今後とも、一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。少年補導員協会の、ますますのご発展と委員の皆様のご健勝を祈念申し上げ着任の挨拶とさせていただきます。

生駒警察署副署長

木村 愛幸



この度、生駒警察署副署長に着任いたしました木村でございます。

私は、生駒警察署での勤務は二度目でございます。一度目は、昭和五十四年のことでありますから、なんと三十五年振りの勤務となります。

同年に警察学校を卒業し、着任したのが生駒警察署ということもあり、感慨も一

入であります。当時を思い返しますと、街並みこそ大きく変わっておりますが、住民の方々の温かさはいささかも変わっていないというのが着任後の感想です。

と言いますのも、当署の玄関口には花壇があり、出勤してきた我々や来庁者を優しく迎えてくれます。

着任時、この花壇は、少年補導員協会女性部の皆さんが作って下さったのだと生活安全課長から聞き、ふと、当時の思い出と共に、「ああ、生駒に帰ってきて良かった」という思いが溢れたことを覚えております。

さて、警察では「子どもを犯罪の被害者にも加害者にもさせない」ための対策について全力で取り組んでおります。

申し上げるまでもなく子どもは「次代を担う宝」であり、子どもたちが健やかに育つための環境づくりは、我々大人たちの責務であると考えています。

そして、その気運の高まりこそ、「日本一安全で安心して暮らせる奈良の実現」につながるものであると確

信しております。

その中で、生駒警察署少年健全育成に対する熱心な活動は、大きな役割を担っているといっても過言ではありません。

今後、刑事警察三十年で得た経験を最大限に活かし、次代を担う青少年のために、精一杯努力していく所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

生駒警察署生活安全課長

川村 友彦



この度の人事異動で生駒警察署生活安全課長に着任いたしました川村です。

少年補導員の皆さまには、平素から少年の健全育成活動にご理解とご支援を賜りありがとうございます。

生駒警察署に着任するまでは、奈良警察署地域課、

警察学校、総務課等で勤務しておりました。

生駒警察署での勤務は十四年ぶり二回目の勤務となるわけですが、私にとつては、警察学校卒業後、最初に赴任したのが当署ということもあり、特に感慨深いものがあります。

拝命当時の新鮮な気持ち思い出して、「あの頃」のように全力で勤務する所存です。

さて、私は、生駒警察署生活安全課長着任にあたって、とても楽しみにしていることがあります。

それは、少年補導員協会女性部の「紙芝居」による被害防止活動です。

前任の梶課長からも「女性部の皆さんが紙芝居をしてくれるねん。熱心にやっけて下さるから、お前も頑張らなあかんで！」と引継ぎを受けております。

何やら、私の役どころもあるようで、今から楽しみです。何やら、私の役どころもあるようで、今から楽しみです。

その節は精一杯頑張りますのでよろしくお願いたします。

今後、皆さまと共に少年

の健全育成と非行防止を中心とした活動を行いたいと思いますので、力強いご支援をお願い申し上げます。

生駒警察署生活安全課係長

武田 全広



少年補導員の皆様、ご無沙汰いたしております。

この度の人事異動で三年ぶりに生駒警察署生活安全課に帰って参りました武田です。

三年前は、主に事件捜査を担当していましたので、少年補導員の皆様方と接する機会は少なかつたかと思えます。

しかし、今回は、防犯許認可係長として勤務することになり、少年補導員の皆様方と一緒に活動する機会は数多くあることと思えます。

何分、行政的な仕事をす

るのは、約八年ぶりということもあり、着任そうそう右も左も分からず毎日ためらうばかりで、新米と同じような感覚でしかありません。

そのため、少年補導員の皆様方にはご迷惑をおかけすることも多々あることと思いますが、初心に戻ったつもりで一から精一杯頑張つていきたいと思つていきますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

生駒警察署生活安全課主任

筧 純一



この度、生駒警察署の生活安全課主任を命ぜられました。お願ひ致します。

生駒署に着任する前は高田警察署、奈良西警察署、警察本部等で勤務しておりました。

生駒警察署での勤務は初

めてですが、毎日地図を片手に頑張つています。

少年・事件係の主任として、少年の健全育成のために全力を尽くしますので、前任と変わらぬご支援をお願い申し上げます。

生駒警察署生活安全課係員

小槻 博司



今回の人事異動で生駒警察署少年・事件係に着任いたしました小槻です。

少年警察活動への憧れから生活安全課の門を叩き、この度念願叶って生活安全課で勤務することができました。

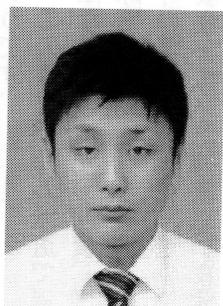
何事にも前向きに、笑顔を忘れず頑張つて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

引き続きよろしく
お願ひします

警部補 高橋 靖典



巡查長 名越 崇則



巡查部長 森本 祐子



日帰り研修報告

副会長 瀧口 政則

今回の研修は、昨年の海上自衛隊舞鶴地方隊に続き二月十七日、陸上自衛隊福知山駐屯地に行きました。歴史として、少なくとも縄文時代の始め頃から人が住んでいて、古くから交通の要衝として栄えた場所でもありと考えられています。

特に十六世紀には、織田信長の家臣・明智光秀が、この地方を一族で支配していた有力豪族である塩見信房を倒し、その居城であった横山城を大修築し福智山城（後の福知山城）としてからは、城下町として栄え、現在でも「鑄物師町」、「呉服町」など地名にその名残を残しています。また、光秀は、たびたび大氾濫を起こしていた由良川の治水に成功し、地子銭を免除する

などの善政を敷いたことから、御霊神社に祀られ、現在でも市の花も明智氏の家紋であるキキヨウとするなど、光秀への信望は厚いようです。

近世になると、関ヶ原の戦いの論功行賞により有馬豊氏が八万石の禄高で福知山城に入城し福知山藩を開き、その藩祖となり。その後の藩主は徳川家譜代の大名が転変するものの、朽木氏をもつて落ち着き、幕末まで統治されていました。

そして、一八九八年（明治三十一年）八月三十日、旧陸軍歩兵第二十連隊が大坂城内より移駐し駐屯地が設立され、第二次世界大戦後、一時期は日本国有鉄道の鉄道教習所として使用されるも、一九五〇年（昭和二十五年）十二月五日に警察予備隊の駐屯地として新たに発足し、一九五二年（昭和二十七年）一月十九日に岡山県の水島駐屯地から第三管区普通科第七連隊本部および第一大隊が移駐、同年八月一日には警察予備隊は保安隊に改組し、一九五四年（昭和二十九年）七月



一日には陸上自衛隊に改組されました。一九六二年（昭和三十七年）一月十八日にそれまでの管区隊が師団編成となり駐屯していた第一大隊と直轄部隊で第七普通科連隊として編成完成されました。

そして、レンジャーの発祥地でもあります。レンジャーと消防のレスキューとの違いは、レスキューは主に消防の救助隊員の事をいいます。消防の中で救助活動を任務とするオレンジ服を着た隊員です。あと海保の救難員の事もレスキューと呼ばれます。

レンジャーとは陸上自衛隊に設置されている部隊です。少人数による潜入など

特殊任務をする部隊。

あと警察にもレンジャーと呼ばれる降下による突入し犯人逮捕を任務とする部隊があります。あと横浜消防の救助隊は創設当初、陸上自衛隊レンジャー部隊から指導を受けたためにレスキューではなくレンジャーと総称しています。

近年の活動として、平成二十三年三月十一日東日本大震災、同年八月二十五日台風十二号による紀伊半島の豪雨被害、そして昨年、広島県の土砂災害や福知山豪雨災害等へ、敏速な救援に出勤していました。

隊員からの、ビデオメッセージで、どの様な救援活動をされていたか良く分かり、特に東日本大震災では、腰まで泥に埋まりながらの、行方不明者の捜索、瓦礫処理及び生存者の確認活動と、女性隊員活動では、仮設風呂設置などで、被災者の心と身体を癒され、介護されている姿に感銘しました。

そして、二月十八日には、エボラ出血熱の猛威がやまない西アフリカのシエラレ

オネに向けて、防衛省が陸上自衛隊の輸送部隊を現地に派遣する検討に入ったとの新聞記事がありました。陸自の輸送部隊が現地です。師や物資の輸送を担うほか、海上自衛隊の輸送艦と補給艦も西アフリカ沖に展開して陸自隊員の拠点とし、派遣隊員は全体で四〇〇人規模とする案が、提案されたようです。

この様に、海外派遣で過酷な地域の治安の回復、国際緊急援助活動や復興支援等の過酷な任務に、心から敬意を払いたいと思います。

